

# 梅窓院通信

春彼岸号

No. 93

2018/03/01

# 青山



梅窓院境内に咲く花々たち。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

皆さんは梅窓院に一番人が集まる行事とは何だと思われませんか。

そう、まもなく迎える彼岸会がその答えです。春と秋の彼岸はご先祖様のご供養、そしてお墓参りで境内が人と車で溢れかえります。

ですが、今年の元旦は、お彼岸の中日かと見間違っほど多くの檀信徒さんのお参りをいただきました。

お正月にお寺にお参りしていただく方もいらっしやるだろうからと始めた元旦の修正会しほりあひ。せっかくの元旦なのでお雑煮やおせち料理をふるまい始めたこともあり、年々参詣者が増えてきて、おそらく今年も元旦一日で千人を超えるお参りをいただきました。

別居している息子さん一家や娘さん一家と待ち合わせをして、法要に参列、法要後に控室でおせち料理を囲み、お雑煮を食べながらの親族一同のお正月の顔合わせ会となる――。

思ってもいなかったことですが、大人数が集まれる場所としてのお寺ならではの行事になり始めているようです。お正月は普段忙しいお子様たちも塾や習い事はお休みですから、いつもはなかなか会えないお孫さんたちの顔を見られて、お寺としても嬉しい新年となっております。



その修正会用に浄土宗開宗八百五十年記念として法然上人絵を織り込んだ七條のお袈裟を誂あつらえました。(写真右)また、昨年末に京都の清浄華院で、法然上人像のお身拭いをさせていただきます。(写真上)身が引き締まる思いでした。



春彼岸への花便り

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

早

春の春の訪れから、仲春の春の真つ盛り、そして晩春の行く春への思い。春は、四季の移り変わりを生活する私たちの日明かし、日暮らしにとって、とても快い季節の歩みでもある。

その春は、ちょうどお彼岸の頃に春らしい季節の落ち着きを示し、やがて桜の花の満開によって、春という気分が持ちが最高潮に横溢する。この春の、春らしい風情風趣を彼岸時分の折柄の中から感じ取ってみたい。

春を呼ぶ春風は、「東風吹かば…」の歌詠に見られる春の気をもたらす東風にはじまって、涅槃西風・彼岸西風の冬の名残の西風も吹いて、彼岸の頃合いには「しゅんぷう」と音読みするよりは「はるかぜ」と訓読みしたくなるようなおだやかさとなる。

閻魔見し頭ぐらつく春の風 (牛次郎) 恋姿なき羅漢春風五百吹く (桂郎)

両句とも決して彼岸の折の句ではないが、田中牛次郎は閻魔大王像をまのあたりにして、石川桂郎は五百羅漢像とともにやわらいだ春の風に吹かれている。兩人とも『鶴』の創刊に加わり、石田波郷とかかわりの深い俳人である。

そして「三寒四温」の営みに一日一日と春めいて、春雨・春の雨が、さらに春らしく季節を定めて行くのである。

寺に入れば石の寒さよ春の雨 (光太郎) 大仏は垂れ頬におはす春の雨 (梅史)

かつて小林一茶は「有明や石の凹みの春の雨」と詠んで、すぐれた句想の機微を示したが、詩人高村光太郎は寺参りの春雨に石畳の、いや石塔・墓石の端然とした寒さを見つめている。山本梅史の句は、露座の大仏の尊顔に降りかかる春の雨を、垂れ給う慈雨に事寄せているかのようでもある。

そして、そしてである。そのような春の日柄にもっともふさわしいのは、春の花便りではなからうか。漢語には「花信」という言葉があり、花が咲いたというしらせ、まさに花便りの意味であるが、「花信風」とは文字通り、花を咲かせる春の風のことである。

さて、梅、桃、桜といった春の花の主役の名花はさておいて、早春の山野草には仏教語にまつわるものもろくに由来する草花名が多い。蓮華草・華髪草・瑠璃草・座禅草、木蓮・三宝柑・櫻の芽・真菰の芽、さらには葱坊主など――、いずれも仏教季語である。

ここでは春を告げる仏教俳句の花便りを数句掲げてみたい。

牡丹の芽当麻の塔の影とありぬ (秋櫻子) 連翹や奈良の寺々雨しずか (一步) 鐘撞いてつこの区切り沈丁花 (袖子) 紫雲英野に馬首を、ただく観世音 (蓼汀) 初すみれ禅僧の袖背で結ぶ (斌雄)

水原秋櫻子は大和盆地の歴史を刻んできた塔影と早春の牡丹の花芽を対照化し、石神一步はその奈良の古寺群に降る雨の中の連翹を詠んだ。鍵和田袖子は沈丁花に心を寄せながら寺鐘を聴いて、ひと息、気持ちを確認している。福田蓼汀の句――、げんげの別称は蓮華草、紅紫色に咲き競うげんげ野・げんげ田に馬頭観音の古くからの慈悲が守り継がれている。中島斌雄は、禅僧の清澄さに初華を対比させた。

さて春が訪れ来たりて、あらためて春を思う。春を思い、春の心すなわち春心を知る。春心春意を知って、春心春情を感じる。そしてできうるならば、そうした春意を、春情を、春心を、自分一人だけでなく、家族や知人友人と、まわりの人々と一緒に感じ合いたい、共有し合い、共感し合いたいものである。 (大正大学名誉教授)

修正会とお雑煮の振舞いが無事終了致しました。元旦から沢山の方がお参り下さいました。



今年で9回目となる修正会法要。



修正会の後におせちとお雑煮を楽しむ檀信徒の皆さん。

# 春彼岸法要

## 三月二十一日(水)

### 彼岸寄席

### 春彼岸法要

午後一時～地下二階祖師堂

午後二時～地下二階祖師堂

#### プロフィール

たてかわこたんし  
立川小談志師匠

岐阜県出身。

昭和五十一年九月八日生まれ。

本名 寺田政春



#### 経歴

一九九九年五月 立川談志に入門。  
前座名「談吉」。

二〇〇七年七月 ニツ目昇進、  
「泉水亭錦魚」を襲名。

二〇一一年十一月 談志死去のため、

二〇一二年四月 龍志門下へ。

二〇一五年十月 真打に昇進、

二代目「立川小談志」を襲名。

#### 春彼岸によ

春彼岸は三月の「春分の日」の前後三日間の計七日間をいい、それぞれの初日を「彼岸入り」、終わりの日を「彼岸明け」といいます。

春分の日、太陽が真東から出て真西に沈みます。夜と昼の長さがちょうど同じになるとされ「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、最も過ごしやすい季節になり、お墓参りしやすい安定した気候になるのが特徴です。

彼岸は古来より、悟りをひらけるように仏道修行の期間という意味合いもあり、真西に沈む太陽に祈りを捧げ、煩惱を払っていたようです。この日に夕日を拝むのは西にある浄土、つまり阿弥陀様のいらっしゃる「西方極楽浄土」に向かつて拝むことになりま

す。彼岸は「パーラミター」という梵語の漢音写「波羅蜜」で「到彼岸」と訳されます。煩惱を脱した悟りの境地のことを言い、三途の川をはさんで「此の迷いの岸（此岸である現実の世界から、彼の悟りの岸（彼岸）である仏の世界へ到達する）」という意味になります。

#### 塔婆申込み方法

同封のはがきを使い**3月10日(土)必着**でお申込み下さい。  
塔婆回向料は一本**7,000円**とさせていただきます。

#### お支払方法

同封の振込用紙で**郵便局**にてお支払いいただくか、**当院受付**までお持ち下さい。  
(銀行でのお振込みはできません。)

#### 春彼岸物産展

3月20日・21日 観音堂

今年も郡上八幡の特産品が梅窓院にやります。この機会にぜひお求め下さい。



※観音堂エントランスにてお呈茶しておりますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

#### 〈お檀家様へお願い〉

3月18日～24日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。

#### 平成30年 春の動物慰霊法要のお知らせ

梅窓院の僧侶がご供養を勤めます。ぜひご参列下さい。



正午～ 2階本堂にて

主催:株式会社日本エキスパートシステム

「六波羅蜜」の教えとは、かいつまんで言いますと左記の六つになります。

- 一、布施 〓 他人への施し
- 二、持戒 〓 戒を守り、反省する
- 三、忍辱 〓 不平不満を言わず耐え忍ぶ
- 四、精進 〓 一心に努力する
- 五、禪定 〓 心を安定させる
- 六、智慧 〓 真実を見る智慧を働かせる

皆さま、春彼岸会にはご家族お誘いあわせの上、梅窓院にどうぞお参りくださいませ。そして皆さま諸共に手を合わせ、亡き人に思いを馳せながら、ご一緒にお念仏いたしましょう。  
(法務部)

# おきおさんぽ会

## 浄土宗・

# 傳通院と善光寺

(東京メトロ後楽園駅、都営三田線春日駅)

「おきおさんぽ会」―お檀家さんと一緒に寺々をお参りする読者参加企画、第二回は浄土宗の傳通院とその一山の善光寺を訪れました。傳通院は梅窓院との合同団体参拝をしているお寺で、関東十八檀林のひとつで由緒ある名刹です。また善光寺には戒壇巡りがあり、参加者ひとり一人が本尊阿弥陀如来とご縁を結んできました。

当日は真つ青な空が広がる快晴となりました。文京区の区役所で待ち合わせた総勢十四人で傳通院へ向かいます。途中、傳通院の一山で、お稲荷さんで有名な澤蔵司稲荷(慈眼院)へ毎朝打ち立ての蕎麦を箱に入れて届けているという蕎麦屋、萬盛さんを外から見学。同行の川添上人より由来を伺いました。

実は川添上人、梅窓院に入られる前は、傳通院が母体の小石川淑徳学園(現淑徳S.C)の校長先生を務められていましたので、この辺りの事は詳しくご存知なのです。

創建当時の傳通院の大きさを彷彿させる幅広い参



傳通院本堂。

道に入ると、六年前に新築された傳通院の山門が目飛び込みます。国産ヒノキで造られた後世に残る立派な山門、今回は特別に上がらせていただきました。本堂でのお勤めの後、 貴主より傳通院の由緒を伺いました。興味を惹かれたのは、増上寺は男寺、傳通院は女寺という説明で、徳川家の将軍である男性が埋葬されたのが増上寺、將軍の奥様や母様が埋葬されたのが傳通院という話で、中でも徳川家康公の母である於大の方の墓地が傳通院の創建由緒となるものです。墓地で実際の於大の方のお墓を参拝すると、それはそれは立派なお墓でした。参加者からの



於大の方のお墓は大きく、正面左右の柱が特徴的だった。



貴主と参加者の記念写真。



お蕎麦屋の萬盛を説明する川添上人。



優しくわかりやすい説明をいただいた傳通院の貴主。



寺務長から傳通院の開山である聖岡上人の説明を受ける。



傳通院本堂でのお勤め。

アンケートにも、お墓の入り口の左右に柱が立っているのはとても珍しい、ぜひ『青山』にも写真を載せて欲しい、との要望があったくらいです。他にも將軍家の大きなお墓、歴代住職の卵型のお墓、そして有名な人のお墓もありました。

傳通院での予定の二時間があつという間に過ぎ、お昼へ向かいます。

傳通院から淑徳SC、澤蔵司稻荷と善光寺の前を通って着いたのは「青いナポリ」というイタリアンのお店。元工場の建物の二階を開放的なスペースに改装したお店で、ピザとパスタのランチをいただきました。



青いナポリで昼食をいただく。

昼食後は善光寺の参拝です。角地にある善光寺には、山門が二つありました。先代住職が他寺の取り壊す予定の門を単にもらい受けたとの説明を住職から受けました。

本堂でのお勤めが終わると待望の戒壇巡りです。この戒壇巡りは信州善光寺が有名です。読者の中にも当院の団体参拝で体験された方もいらっしゃるかとだと思います。

戒壇巡りとは、本堂の下に回廊が作られているのですが、これが真つ暗闇で、一寸先も壁も全く見えません。普段経験できない暗黒の世界です。この回廊の壁



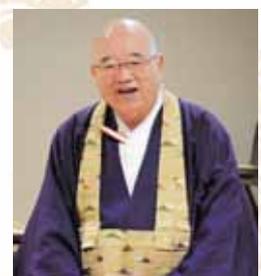
善光寺本堂。

を手で触りながら進み、本尊阿弥陀如来の真下にある錠前を探しあて、それに触れることで本尊と縁を結び、暗黒の世界から光あるこの世に戻るとともに、それまでの罪を無くして新たに生まれ変わることができるというものです。

一人ひとり間において本堂地下の暗闇の中へ入っていきました。

傳通院と善光寺が今回の参拝寺院でしたので、お寺おさんぽ会はこれで解散となったのですが、両寺の間にある澤蔵司稻荷もお参りしようということになり、みんなそろってお参りさせていただきました。

善光寺の住職、その優しい人柄がにじみ出ている住職だった。



戒壇巡りでは、一人ずつ本堂下の暗闇へ入っていく。



善光寺本堂でのお勤め。



特別なお参りとなった澤蔵司稻荷(慈眼院)。

### 参加者募集のお知らせ

お寺おさんぽ会ではご参加いただく檀信徒の皆様を募集します。参加費は昼食代の千円が目途で、東京近郊のお寺を参拝する会です。

なお次回は六月頃に池上本門寺、上野寛永寺、新宿太宗寺のいずれかを予定しています。詳しくは改めてご案内を差し上げます。

前回ご登場いただいた隨身時代の最後の上人、  
上人に続いては新生梅窓院となってからの学寮に入られた  
上人にご登場いただきました。 上人は青森県北津  
軽郡の薬王寺の副住職で31歳。このシリーズ最年少で、この  
梅真会会員シリーズの最後を締めくくっていただきます。

◆本日はよろしくお願ひ致します。  
こちらこそ、青森まで来ていただ  
き恐縮です。

◆空港からレンタカーで来ましたが、この辺りはりんごの産地  
ですか。

ええ、檀家さんのほとんどがりんご農家です。ですから  
法事も土日は関係なく、むしろ平日の方が多くですね。

◆なるほど。雪が降る前に何おうということになったのです  
が、やはり雪は多いのですか。

ええ、青森は雪深いですね。

◆その雪深い青森から東京に上京されたのはいつでしょう。

大正大学入学と同時にです。1年から3年生までは増  
上寺に隨身、そして4年生の時には一人暮らしをしました。

◆そうすると梅窓院との縁は卒業後からですか。

はい、卒業時に2期上の 上人から誘われて梅  
窓院に入りました。

◆梅窓院のことはご存知でしたか。

いいえ、失礼ながら 先輩に連れてこられて初めて  
知りました。

◆どんな印象でしたか。

すごい場所にある現代的で大きなお寺と思いました。

◆で、迷わず梅窓院に入られた。

はい、ちょうどその時は 先輩、 上人、瀧沢  
孝彦上人、西沢正彦上人が学寮に入られていて、同期の

上人も学寮に入りました。22歳から5年半、職員としてお世  
話になりましたが、楽しい思い出ばかりです。

◆まさに学寮全盛時代ですね。

僕は食いしん坊で寝坊助なので、よく先輩に起こしても  
らい助かりました(笑)。

◆みなさん年齢もそれほど離れていないですし、仲も良かった  
のでしょうか。



楽しい思い出を語って  
くれた  
上人。

梅真会会員  
薬王寺副住職



中島住職と 上人、薬王寺本尊阿弥陀如来の前で。

ええ、全員が飲み友達でした。あっ、こんなこと言っでは  
いけなかったかな。

◆大丈夫です(笑)。般若湯はつきものでしょうから。

そうですね(笑)。

でも、僕は結構馴れ馴れしくする時もある、先輩には  
時々、「馴れ馴れし過ぎ！」と怒られました。

◆怒られるのは可愛がられている証ですね。学寮での食事は  
はどうしていたのですか。

夕食は外食が多くて、青山通りを渡った所のギョーザ屋  
さん、ラーメン屋さん、スタジアム通りにもよく行きました。あと、田  
町にあるスポーツセンターで汗を流しました。

◆お昼ごはんは梅窓院の食堂で食べられたのですか。

はい、もちろんです。

梅窓院の食堂で さんの作ってくれるお昼ごはんは最高で  
した。 さんのごはんに勝るもの無し、です!

◆そうですね。社内食堂が減っていくご時世ですが、梅窓院  
の食堂は充実していますものね。

はい、 さんは自分のことを東京のお父さんだと思いな  
さいと言ってくれたので、パパと呼んでいました(笑)。

それに僕が食いしん坊だとわかると、必ず大盛にしてくれて、お  
昼の時間が待ち遠しかったです。

◆今こうしてお話しをされてる時の嬉しそうなお顔を見てもわ  
かります(笑)。

お寺の仕事はいかがでしたか。

檀信徒さんが多すぎて顔と名前が一致しないこともあり  
ました。でも、棚経ではいつも同じ檀家さんの家へお参りしたの  
で、今でも年賀状のやり取りをしている方もいらっしゃいます。

◆そうですね、良いお付き合いですね。また詠唱もされてい  
ましたか。

泉博美上人にご指導いただいて、お舞も奉納しました。

◆増上寺ですね。

1年に1度の御忌大会での発表は目標でした。

◆最後になりましたが、住職になられると聞きましたが。

はい。5月6日に晋山式を行います。

◆それはおめでとうございます。若い住職誕生ですね。薬王  
寺さんのますますのご興隆を祈念いたします。

今日はありがとうございました。

やまと南青山店

今回は梅窓院から徒歩約6分の場所にある、豚肉創作料理 やまと南青山店をご紹介します。

肉質がきめ細かく、お鍋にしてもアクが出ない「やまと豚」が看板メニューで、ランチのお薦めはとんかつ。それがディナーになると「やまと豚」がメインの薬膳不老長寿鍋がお薦めと、昼と夜とでメイン料理が異なるのが魅力です。

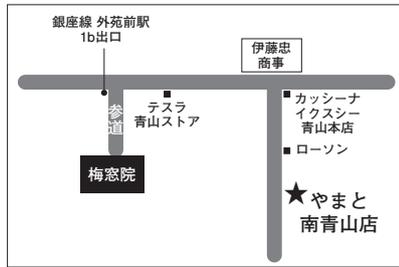
人気のランチメニュー、特選コースカツ膳(150g)はかなりの厚みがあり、衣はサクサク、お肉はしっとりとしており豚肉の甘みをしっかりと味わうことができます。

す。味付けも6種類あり、塩、ごま塩、甘口ソース、辛口ソース、甘口ごま、辛口ごまと様々な味でとんかつを楽しめます。

ランチタイムは早い時は5分ほどで満席になり、列ができるほどの人気店です。予約はしておいた方が安心です。

個室が5部屋あるのも南青山店の特徴で、ゆったりとお食事を楽しむことができます。

梅窓院からも近いやまと南青山店では是非一度、優しい甘みの豚肉料理をいただきたいはいかがでしょうか。



営業時間／ランチ11:30~15:30(L.O.15:00)  
ディナー17:00~23:00  
定休日／日曜日・祝日  
席数／54席  
住所／東京都港区南青山2-14-13 B1F  
TEL／03-5411-6131



個室でゆったりとお食事を  
楽しむことができます。



特選コースカツ膳(150g)。1,580円。  
サクサクの衣とお肉の柔らかさが堪らない一品。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選  
○路地裏や聖歌の混じる赤提灯

◎入選

- 熱燗に確め合うてゐる絆
- 去年今年血圧数値変りなく
- 世の中を鬼柚子風呂でひとり占め
- 煮凝りの微かに揺れる朝餉かな
- なんとなく畑にでてみる冬日向
- 霜柱かりりと踏んで連れを追ふ
- 戸隠のぼつち盛そば熱燗と
- 大声で蕎麦湯追加を通しけり
- 追加する酒は地酒で熱燗で
- 屠蘇馳走少しなはれて『蟬しぐれ』
- 暮参り終へて雑煮のひるげかな

◎選者詠

○ 田作りの苦みの残る舌へ酒

大崎 紀夫

〈フンポイントアドバイス〉

みなさんはどこで句作していますか。部屋で座って、電車の席で、吟行で、いろいろあると思いますがわたしは歩いているときがいちばんよく句ができます。加藤楸邨は歩行的思考、といいますが、歩いているときがよく頭が動くような気がします。そして調べのいい句ができるようです。

第七十回  
食は命

食養研究家  
武鈴子

春を彩る桜の効用

春の行事といえば、なんといっても桜の花見でしょうか。日本人にとって桜ほど心をいやし春の晴れやかさを感じさせてくれる花はないでしょう。南から北へ移りゆく桜前線は細長い日本列島を春一色に染めてゆきます。

桜の花は愛でるだけではありません。花の塩漬けはお湯を注げばお祝いの桜湯となり、暖かいご飯に混ぜた桜ご飯は風情があります。葉の塩漬けは桜餅に欠かせません。また、樹の皮は工芸品に利用されますが、ヤマザクラの皮の乾燥品は「桜皮(おうひ)」といい、古くから日本では民間療法としてじんましんや腫れ物、解熱、咳止めなどに利用されてきました。漢方薬の「十味敗毒湯(じゅうみはいどくとう)」にも配合されていますが、これは江戸時代の漢方医・華岡青洲によって作られました。じんましん、化膿性皮膚疾患、水虫、皮膚炎などに利用されます。西洋薬の咳を鎮めて痰を除く「鎮咳去痰薬」にも皮のエキスが使われています。

桜の花のレモン漬け

八重桜の花の七分咲きを摘み取り、容器に桜の花1kgに対し塩240gを交互に入れ、キュッと押しながら詰めていく。最後に残った塩を上のにせ、レモン果汁260ccを容器の縁に沿うように流し入れる。レモン果汁が桜の花の上までくするようにしてラップをし、重石をのせる。2日後、花の固まりをほぐして上下を入れ替え、漬け液を戻し入れてきっちりラップする。1~2週間ほどで、花を引き上げ、しっかり絞ってザルに広げ、陰干しをする。陰干し後の花の重量の20%の食塩を加えてまぶす。容器に入れ、冷暗所に保管する。

投句募集

今回は「春の季語」でご自由にお詠み下さい。4月6日(金)を締切、平成30年6月発送の『お盆号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。  
〒107-0062 港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。  
ウエップ編集室  
電話03-5368-1870

## 平成30年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より平成30年度 前期  
仏教講座を開講します。今年度も5名の  
先生をお迎えしております。どうぞお気  
軽にご参加下さい。

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

## 行事予定

### 春彼岸会法要

3月21日(水)

寄席 午後1時～ 祖師堂

法要 午後2時～ 祖師堂

※詳細は3面をご覧ください。

### はなまつり

4月6日(金)～8日(日)

寺院棟2階 本堂

お釈迦様の誕生日を  
お祝いする「はなまつり」。

寺院棟2階本堂

エントランスに花御堂

を、休憩所には甘茶をご用意しておりま

す。皆様どうぞご参拝下さい。



### 大施餓鬼会法要

5月19日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

### 開山忌法要・能楽奉納

6月9日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

### 第74回 念仏と法話の会

法話 いのちの仕掛を考える

講師 京都 宇治 平等院住職

神居 文彰 上人

◆6月開催予定です。日時等詳細は  
施餓鬼号にてお知らせ致します。

発行 行/梅窓院  
発行日/平成30年3月1日  
発行人/中島 真成  
編集/青山文化村  
住所/〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
電話/03-3404-8447  
FAX/03-3404-8107  
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/  
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp  
題字/中村康隆元浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡

## 梅窓院のお墓とペット供養の窓口

### 日本エキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

先日、猫を飼っている方が犬を飼っている方の数を上回ったと新聞に載っていました。梅窓院のペット供養塔の方は若干ワンちゃんの方が多くいます。もう少ししたら猫ちゃんの方が多くなるかもしれませんね。青山はワンちゃんを連れて散歩されている方が多いのでプレートが掲示しているところを立ち止まって見ている方をよくお見掛けします。結構ワンちゃん散歩の人気スポットになっているようです。

さて春の動物慰霊法要の時期になりました。可愛かったペットちゃんのことを皆様がいだすひと時をお持ちいただけたらと思います。梅窓院におさめていなくてもご参加いただけます。皆様のご参列をお待ちしております。

(墓苑部 森)

## 団体参拝旅行詳細

〈平成30年度〉

# 梅窓院・傳通院合同団体参拝

出雲大社と大山寺 一水の都 松江を巡る旅一

今年の梅窓院団体参拝は、小石川傳通院との合同で行うことになりました。

傳通院は浄土宗の学問所である檀林寺院の歴史をもち、芝の大本山増上寺とともに、浄土宗の名刹寺院として知られております。梅窓院も、旧来よりご縁をいただき、今年は、傳通院の団体参拝旅行に参加させていただきます。

日本古来の神々の国、出雲をはじめ豊かな伝統文化に触れる企画になっており、参拝・観光先は出雲大社、大山寺、月照寺、足立美術館、松江城などを予定しております。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。



日程 平成30年5月28日(月)～30日(水) 2泊3日  
旅客機・バス利用

参加費 110,000円

ご希望の方はご案内をお送りしますので、お気軽にお問合せ下さい。

お問合せ・お申込み

梅窓院広報部 TEL 03-3404-8588/FAX 03-3404-8436  
E-Mail/bunkamura@baisouin.or.jp

企画・実施:傳通院

・(株)JTBコーポレートセールス

## お檀家さんに伺いました

「初めての十夜法要」

(平成29年 十夜法要にて)

息子が秋彼岸写真展にて優秀賞をいただき代理で表彰式に出席する為、初めてお十夜法要に参加しましたが、法話は大変面白く、芋煮は美味しく、とても良い経験をさせていただきました。

年忌法要に出られるご僧侶は3、4人ですが、お十夜法要は8人ものご僧侶が出られていてとても迫力がありました。

お十夜法要は半日の行事なので参加しやすいなと思いました。